

マスターカード A (MA)

【セクター】 電子決済

【市場】 NYSE

【企業概要】

クレジットカードやデビットカード向けに決済ネットワークを提供し、取扱高ではマスターカードとビザが世界的な2強となっています（中国市場を独占する「中国銀聯（UnionPay）」を除いたベース）。マスターカードとビザはアメリカン エクスプレスなどカードの発行も手がけるような企業とは異なり、カード自体の発行や信用供与は行っていません。マスターカードは同社の決済ネットワークを銀行などのカード発行会社が利用した際に、手数料を受け取っています。

【業績】（単位：売上高、純利益は百万ドル、EPS、1株配当、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%、純利益、EPSは調整後ベース）

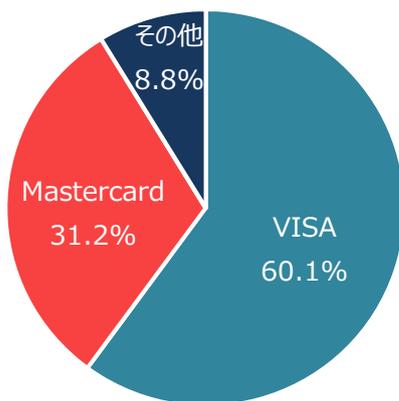
決算期	売上高	純利益	EPS	1株配当	BPS	ROE	自己資本比率
18.12期	14,950	6,792	6.49	1.08	5.2	107.9	22.1
19.12期	16,883	7,900	7.77	1.39	5.9	143.8	20.5
20.12期（予）	15,282	6,378	6.36	1.57	5.6	110.7	-

※EPS：1株当たり利益、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率

（出所）BloombergのデータよりSBI証券作成

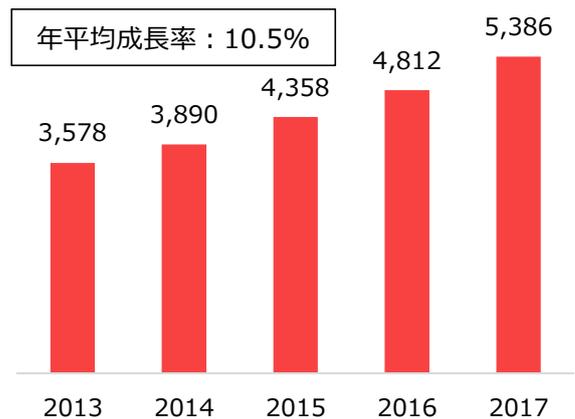
【主要指標】

総取扱高：市場シェア（2018年、UnionPayを除く）



（出所）ビザの会社資料よりSBI証券作成

世界のキャッシュレス取引件数の推移（億件）



（出所）World Payments Report 2019のデータよりSBI証券作成

【会社の見方】

キャッシュレス化や世界的な中間所得層の増加（カード保有者の増加につながる）といった構造的な成長要因が追い風となり、世界のカード決済市場は成長が続いています。カード決済市場に新規参入するためには新たに世界規模の決済ネットワークを構築しなくてはならないため、今後もビザやマスターカードなどが勢力を維持できるとみられます。ビザと比較して、欧州での知名度や浸透度が高いと言われています。

【見通し・注目点】

7-9月期の純売上高は前年同期比14%減となりました。また、海外での利用額の指標となり大きな収入源の1つであるクロスボーダー決済額は同48%減となりました。新型コロナの感染拡大による消費者の国外渡航が大きく落ち込んだことが業績の重しとなっており、今後の業績も新型コロナの動向次第となりそうです。

（SBI証券 投資情報部 中川 潤一）

（更新日 2020/11/19）

本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。本資料の内容は作成時点のものであり、信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成したものです。正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載の情報、意見等は予告なく変更される可能性があります。